

Ⅲ 道路改良事業：一般県道津之郷山守線（福山西環状線）

（1）事業概要

- ① 事業箇所 福山市瀬戸町～福山市駅家町
- ② 規模等 道路延長：8,900m 車道幅員：14.0m（全幅員：20.5m）
- ③ 全体事業費 44,000 百万円（暫定2車線）（前回の再評価時と同額）
- ④ 工期 平成11年度～令和9年度（前回の再評価時と同じ）

（2）再評価の事由

前回の再評価後5年が経過した時点で継続中の事業であるため

（3）審議内容

① 事業の内容と必要性

福山都市圏の既存幹線道路では、依然として朝夕の通勤・通学時間帯を中心に厳しい交通渋滞が見られ、市民生活や社会・経済活動への支障、並びに大気環境への影響等が同都市圏の大きな課題となっている。

本事業は、これらの課題を少しでも解消するために計画された事業で、合併支援道路に位置付けられている当該道路は、一般国道182号、一般国道486号と合わせて、福山都市圏の外郭環状軸を形成する主要幹線で地域の自立的発展や地域間の連携を支える地域高規格道路「福山環状道路」の一部を成すものである。

当該道路の整備によって一般国道2号と一般国道486号とが南北方向に繋がり、福山市内の交通混雑の緩和のみならず、府中市を中心とする内陸部地域との連絡強化も期待できる。

② 事業を巡る社会情勢及び必要性等の変化

国勢調査によれば、福山市の人口は、平成22年度の461,357人に対し、平成27年度は464,811人と増加している。一方、近隣の交通量は、道路交通センサスによれば、一般国道313号では、平成22年度が22,363台/日、平成27年度が21,674台/日、一般県道川南近田線では、平成22年度が14,122台/日、平成27年度が13,663台/日と減少気味であるが、いずれも事業の必要性を見直さなければならぬような大きな変化はない。

③ 進捗状況と今後の見通し

事業は計画通り進捗しており、令和9年度の事業を完了に向け、順調に工事が進んでいる。

④ 事業費の増減と現時点での費用便益比

前回の再評価時と比較し、全体事業費に増減はない。費用便益比B/Cについては、「費用便益分析マニュアル（H30.2国土交通省道路局 都市・地域整備局）」に準拠して行われた分析によれば、評価期間を供用開始後の50年間、社会的割引率を4.0%とした結果、前回の2.5（総便益（B）：781.9億円、総費用（C）：314.8億円）から3.5（総便益（B）：1,347.0億円、総費用（C）：386.0億円）と増加している。その主な理由は、計画交通量の増加により走行時間短縮便益が増加したことによるものである。

⑤ 地元からの要望

一般国道182号などの著しい渋滞対策や大規模災害に備えたダブルネットワークの構築など、福山市の安定的な発展に不可欠な重要な路線であり、市民生活の安全性や利便性の向上を図るためにも、主要路線である本線の早期整備を強く望んでいる。

(4) 結論

事業の必要性と費用便益比を勘案し、当該事業の継続実施については適当と判断する。

今後は、住民の理解を得て速やかに用地買収を終わらせて工事を推進するとともに、構造物設計において、経済的な工法の採用によりコスト縮減に努め、計画どおりに本路線の供用を開始できるよう、関係各位には一層の努力をお願いします。